

令和3年度 学校自己評価書 (川南町立東小学校)

項目	評価指標 及び 具体的目標	方策・手立て	自己評価		結果の考察・分析および改善策等
			項目	総合	
I 町民が生涯を通じて学び、教育に参画する社会づくりの推進					
1	家庭教育支援の充実 に努める。 ・家庭教育学級、学級懇談会の活用 ・「早寝、早起き、朝ごはん」等生活リズム定着への啓発 ・保護者相談、個別面談の充実	・学級役員との相談を通して学級懇談会の内容を工夫し、学級通信、HP等での啓発を継続する。 ・メディア依存の解消も含め、生活リズム定着と実践に向け、家庭教育学級や学校保健委員会の取組を工夫する。 ・関係機関との連携を図るとともに、傾聴を基に保護者の願いの把握に努める。	3	3	・参観日は限られているので、定期的に学級通信等で家庭と情報共有した。学級通信を出す頻度が学級により違うので、最低1週間1回は出すように共通理解を図った。 ・第1回の学校保健員会で「早く寝る」をテーマに各クラスで取組を決めて実践してもらった。取組の成果を保健だよりで報告した。共通実践することで、意識化・行動化につながった。しかし、取組の効果なしと回答した家庭が半数を占めた。今後は、習慣化の定着が図れよう呼びかけだけではなく実践してもらえるような工夫をしていく必要がある。 ・気になる児童については、その都度家庭訪問をし保護者の願いの把握に努めた。保護者から要望があれば、個別に面談を行ってきた。専門機関のアドバイスをを行い、保護者の相談に答えるようにしている。要望があれば、今後も積極的にやっていく。
			3		
			3.1		
2	学校や家庭、地域等が一体となって取り組む教育を推進する。(PTA活動) ・保護者、地域と一体となった挨拶運動や読み聞かせ活動の推進 ・コミュニティ・スクール協議を基にした協働事業の推進	・学校運営協議会委員等との連携を図り、挨拶運動や避難訓練実施への協力体制を構築する。 ・公民館活動(清掃活動等)へ積極的に参加する。 ・地域と連携した読み聞かせ活動を継続し家庭への啓発を図る。※金鈴学園、東保育園との連携	2.8	2.7	・あいさつ運動や避難訓練を行っているが、地域を巻き込んだ活動に至っていない。風水害避難訓練では、保護者の協力を得て引渡し訓練に参加していただいた。台風など風水害における地域と協力した総合防災訓練の計画を立て、地域の協力のもと実施できるかの検討を行っていきたい。 ・児童や保護者のボランティアを募って、7月4日(日)の甘付・伊倉地区の海岸清掃を行った。児童が30名ほど参加してくれた。今後も地域に貢献できる活動に積極的に参加できるように計画を立てていきたい。12月には、花植え活動に児童及び職員も数名参加した。 ・今年も図書ボランティアを募集し、保護者や地域の方10名に協力していただき読み聞かせを行っている。金鈴学園との情報交換会は7月26日に第1回を行った。金鈴学園の職員と担任との情報共有や共通した指導内容が確認できた。2月に第2回を予定していたが中止になったので、各担任と金鈴学園職員との個別の情報交換となった。今後も定期的に継続して行っていきたい。
			2.5		
			3		
II 社会を生き抜く基盤を培い、未来を担う人財を育む教育の推進					
1	読書活動を推進する。 ・年間貸出冊数14,000冊以上の継続 ・読書に親しむ時間の確保	・毎週水曜日に朝読書の時間を設定し、継続する。 ・地域、保護者との連携による読み聞かせ(月1回)を推進する。	3.2	3.1	・10月の月目標の取組で委員会児童の主体的な活動を行ったことで、読書に親しむ児童が増え、貸出冊数が伸びてきた。11/1現在8974冊である。毎週水曜日の朝読書の徹底ができていないので、徹底を図っていく。 ・図書ボランティア10名で6月から月1回実施している。子ども達も毎回楽しみにしている。ボランティア募集を行っているが、新規に参加してくださる方が少ない状況であるので、年間を通して、ボランティアの募集を行っていく。
			3.4		
2	確かな学力を育む教育を推進する。 ・学ぶ意欲の向上 ・基礎的学力の定着(CRTにおける全学年全国平均以上) ・授業等におけるICT機器の積極的活用	・ユニバーサルデザインを活用した、児童が見通しのもてる授業を構築する。 ・認知機能トレーニング(コグトレ)の実施。 ・ICT機器活用を手立てとした授業研究を進め、効果的な活用を研修し、指導力の向上を目指す。※ICT機器、アナログ教材双方の利点を生かす。	2.8	2.9	・教室掲示物等についてはユニバーサルデザインを意識した取組ができてはいるが、授業において活用するまでには至っていない。今後研究を深めていく必要がある。 ・2学期より学びタイムの時間を活用し、全校でコグトレに取り組み体制を整え、各学年の発達段階に応じて実践をしている。週4回実施する学年があるなど、全学年共通して取り組むことができるようになった。成果等については、3学期にアンケートをとる予定である。 ・タブレット等のICT機器を授業で積極的に使うために校内研究として取り組み、児童も教員も授業の様々な場面で活用できるようになってきた。今後も継続して研修を行い、効果的な活用を行い児童の学力向上につなげていきたい。
			3.1		
			2.8		
3	人権を尊重し豊かな心を育む教育を推進する。 ・人権教育(命を大切に教育)に関する参観授業の設定 ・児童縦割り班活動の継続 ・教育相談の充実(友達に優しく接する児童の割合95%以上)	・6月参観日に人権に関する授業を実施し、思いやりの心、自他の命を大切にすることを育てるとともに、保護者への啓発を図る。 ・児童縦割り班によるボランティア活動や清掃活動等を実施する。 ・教育相談アンケートを実施し、傾聴を基に月1回の教育相談を実施する。また、ハートフル委員会、ケース会議等を通して児童の様子を共有し支援にあたる。	3.1	3.3	・「宮崎県のいのちの教育週間」に合わせて、参観授業を行い、夏季休業中の人権教育研修で報告会をした。12月は、全校で思いやりの心を育てる「思いやりビンゴ」を行い、児童相互で思いやりの気持ちを伝える場を設定した。 ・どんぐり班での清掃活動は行っているが、ボランティア活動は本年度行っていない。今後計画していきたい。 ・月1回の教育相談アンケートと教育相談を行っている。個別に教育相談を行うことで児童間の小さなトラブル等も把握することができた。また、ハートフル委員会やケース会議において全職員や関係職員で支援や指導の共通理解を図ることができた。友達に優しく接することがよくできる児童の割合が、令和2年度の68%から62%に減っていた。目標の95%は達成できていないので、教職員一人一人が自覚した具体的な対策を考えていく必要がある。
			3.3		
			3.5		
4	特別支援教育を推進する。 ・個に応じた指導・支援の充実 ・共生社会をめざした人権感覚の醸成 ・児童の自己肯定感の向上	・特支コーディネーターを中心に体制を整備するとともに、個別の教育支援計画、個別の指導計画の作成を通して指導・支援にあたる。 ・合理的配慮への保護者の理解を得るとともに、保護者、職員間での支援の方向性を共有し、連携を通して児童の自己肯定感を高める。 ・外部専門機関をケースに応じて活用するとともに保護者相談を継続する。	3.4	3.2	・毎月1回の特別支援教育委員会を実施することで、特性のある児童についての実態や支援の在り方について共通理解をした。 ・エリアコーディネーターを中心に観察やWISC検査、保護者へのフィードバックを行うことで、学校と保護者が連携して児童の支援にあたり、児童の成長につながりつつある。また、合理的配慮についての校内夏季研修を行って合理的配慮について共通理解を図った。 ・児童だけではなく、保護者についても必要に応じてスクールカウンセラーとの面談を行い、保護者にも協力をいただきながら自己肯定感を高める努力をした。
			2.8		
			3.2		
5	郷土を愛し地域社会に参画する態度を育む教育を推進する。 ・地域人材を活用したふるさと学習の推進 ・地域行事への積極的な参加	・町地域学校協働本部事業を活用し、地域人材を交えた学習を積極的に進め、地域人材を通して川南のよさを知る。 ・町歌を歌う場を教育活動の中に計画的に位置付けるとともに、普段の授業の中に「川南では・・・」という視点をもち、ふるさと川南への理解を深める。 ・連携を基に公民館活動等への参加を呼びかける。	3.1	2.7	・ミシン学習の補助やキャリア教育学習等各学年で確実に進めることができた。ただし、学年によって人材活用に差があり、十分に活用しているとは言い難い。町の方針や意義を理解し、継続して取り組む必要がある。 ・入学式や運動会等では町歌を歌ったが、コロナ感染対策下のため3番まで歌っていない。普段の授業においては、社会科や総合的な学習の時間、学級活動等の授業を通して保護者が講師として授業参加をする学習を行ったり、学校周辺にある企業に見学に行ったりして、川南町を意識したふるさと学習に取り組んでいる。全学年取り組めるよう教科等の年間指導計画を見直していく。 ・運営委員会が中心となって公民館活動の花いっぱい活動に参加を呼び掛けるポスター等を作成した。その結果、各地区の児童がたくさん参加をしてくれた。
			2.8		
			2.2		
6	キャリア教育を推進する。 ・キャリア教育の視点を生かした授業実践 ・地域の方との連携による学習活動の実施	・地域人材の授業参加を進め、その人の仕事観、生き方を学ぶ機会を設ける。学びを基に考えを深めさせる。 ・キャリア教育研修会等への参加を勧める。	3	2.3	・6年生は、キャリア教育学習で保護者や地域の方(看護師・警察官・美容師・公務員)を招いて、各職業について講話をしていただいた。3年生は、サンAと児湯食鳥の方を招いて仕事の内容や思いについて話をいただいた。 ・4年生は、オープンスクールで障がいのある当事者の方をお呼びして保護者と一緒に福祉教育について学んだ。また、第2回東っ子育成協議会では、地域の方と保護者合同で地域の安全に関する講話をNPO法人の初鹿野さんを招いて実施した。今後も地域の方や保護者にも参加していただける研修会を計画したい。
			1.5		
7	社会の変化に対応した多様な人財を育む教育を推進する。 ・ICT機器の活用による興味・関心、意欲の伸長 ・国際化の進展に伴う外国語教育の充実	・デジタルTVやタブレット等の授業での日常的な活用を図り、目的を明確にした学習を進める。 ・ALTとの連携により英語への理解を図る。また、外部講師等の活用を図る。	2.3	2.6	・デジタル教科書は、どの学年においても積極的に活用されていた。本年度は、タブレットPCのどの機能がどんな授業で活用できるのか手探りで各担任が研究している。相互授業参観等を行いながら、有効な使い方を考えていきたい。タブレット活用のきまり作成し、児童に浸透させているが、次年度も継続したい。タブレット持ち帰り訓練も3学年で実施することができた。 ・ALTに本時の学習計画案を来校した時に確認してもらい、学習の目的に沿った指導をしてもらった。国際交流等の外部講師については、本年度実施できていない。来年度計画を立てていく。
			2.8		
			2.8		
III 教育を支える体制や環境の整備・充実					
1	教職員の資質向上と働き方改革の推進に努める。 ・OJT、メンター機能を活用した職員間の対話を重視 ・働き方改革推進プランによる具体的取組の推進と保護者への理解	・メンターチーム意義の確認と全職員が研修等において学ぼうとする姿勢を評価していく。 ・コンプライアンス研修等により法令順守等への意識の継続を図る。 ・本校における取組(勤務時間、業務分担、開錠・施錠、電話連絡、個人面談等)を保護者に周知し実行する。	2.7	3.1	・拠点校指導員や本校の初期研修担当教諭、研究主任を中心にメンターによる各教科の指導を計画的に行った。初期研修の計画に沿って今後も継続して行っていきたい。夏季研修では、ミニ研修を実施し、各先生方の得意分野についてOJT研修を行った。 ・県教職員課の職員を派遣してもらい、コンプライアンス研修会を行った。専門的な立場から、具体的な例を挙げて研修を行ったので有益な研修ができた。今後も職員連絡会や研修を継続的にを行い、職員のコンプライアンス意識を高めていきたい。 ・保護者へは、個人面談の時間設定や留守番電話の設定時間等について文書等で周知した。勤務時間や業務分担等については、4月の参観日の時に学校説明会で行った。開錠・施錠時刻及び登校時刻等については、周知が十分できていないので参観日等を使って周知を図る。
			3.6		
			2.8		
2	安全、安心な教育環境の整備・充実に努める。 ・危機管理マニュアルの見直しと研修、非常時訓練の充実 ・事故等の防止をめざした保護者、地域との連携	・安全点検の継続実施の他、交通教室、各種避難訓練を計画的に行う。 ・適時の徹底した安全指導と保護者、地域連携による児童の事故防止に努める。 ・保護者相談等を活用しアレルギー対応ミス0に努める。	3.2	3.3	・本年度も危機管理マニュアルの改訂を行った。救急体制については、実際の場面での課題も見えたため、改善していきたい。本年度は、不審者対応避難訓練を実施した。課題を洗い出し、来年度はさらに危機意識をもった対応ができる避難訓練を目指していきたい。安全点検の危険箇所への迅速な報告と対応を今後も継続していく。 ・不審者情報や交通事故等が町内で発生した時には、安心メールで情報を保護者に提供し、連携して見守り活動を行った。また、駐在所等にも連絡をし、登下校中に見回り活動をしていただいた。また、東っ子育成協議会を2回行い、校区内の危険箇所の改善を行ったり、児童の見守り活動の協力をお願いしたりできた。 ・必要に応じて保護者と連絡を取り、対応について細かく確認できた。校内のみでのアレルギーに関する周知があるため、漏れないように確実に職員へ周知していく必要がある。
			3		
			3.5		
IV 文化やスポーツに親しむ社会づくりの推進					
1	学校体育の推進に努める。 ・望ましい生活リズムの習慣化 ・基礎体力の向上 ・健康増進意識の高揚(う歯治療率80%以上)	・「早寝・早起き・朝ごはん」メディア使用の約束を、学校保健委員会、学級懇談会の活用により習慣付けを図る。 ・東っ子パワーストレッチタイムの設定、及び体育科学習カードを活用することで基礎体力の向上を図る。 ・発達段階に応じた就寝時間、メディアとの接し方、う歯治療について保護者に提示し理解を促す。	2.8	2.8	・町NF健康教育部会とも連携した取組(メディアの約束など)ができてはいる。学校で様々な取組の協力をお願いするが、家庭によって取組の差がみられるため全体としては習慣化までには至っていない。取組の工夫をして、習慣化が図れるようにしていきたい。 ・本校児童の課題種目「投げる力」「柔軟性」「握力」の力を付けるため、朝の会で30秒程度の時間を設け、曜日ごとに体力トレーニングを行った。学級により取組の差があり効果があるとは言えない。継続していきたく今後も働きかける。 ・発達段階に応じた情報については提示できていない。保健だよりや懇談会資料等で知らせていきたい。う歯治療率は、63.9%であり目標を達成できてはいるが、継続した声掛け等により治療率が昨年度より上がった。引き続き、保護者への声掛けを行っていききたい。
			2.9		
			2.8		